

中央図書館の児童館連携作業報告

- (目的) 長久手市子ども読書活動推進計画に基づき、児童館図書室のレイアウト調整等を行い、利用促進のための協力を行う。
- (対象児童館) 下山児童館
- (作業日) 1 廃棄本選書作業 平成25年5月24日 (中央図書館職員2名対応)
2 レイアウト調整及び廃棄本搬出 平成25年6月5日 (中央図書館職員各1名ずつ対応)
- (作業前所見) 児童館2階の東側に図書室が位置する。全体的に出版年の古い課題図書及び出版年の古い絵本を多く所蔵。乳幼児及び小学校低学年が主な利用者層である。放課後の児童クラブとしても運営され、多くの児童が図書室に出入りしている。人気がある本、読まれる本はほぼ定着しているように思われた。作業前の状態は別紙作業前写真のとおり。
- (作業内容) レイアウト調整
- 1 対象年齢に合わせた配置。
 - 2 利用頻度の高い本と中央図書館が推薦する本を組み合わせた配置。
 - 3 主に図書分類の大分類を基準として本を分け、児童館職員及び児童が分かりやすい配置にする。(棚の見出しが分類の代わりとなる。児童館職員のみでの管理が可能な配置。)
 - 4 中央図書館ならではの本の紹介コーナーを設ける。
(本の背にマーカーでチェックし、ラベルの代用とする。)
- (分類方法等設置の工夫について)
- 1 利用導線を考慮し、壁一面書架側をメイン書架とし、利用の最も多い乳幼児及び小学校低学年を対象とした選書を行った。(別紙配置図1)
 - 2 個別書架側は、あまり利用のない小学校高学年を対象の選書とした。(別紙配置図2)
 - 3 配置図1、2のとおり配置することにより、対象とする利用者別に棚の位置を分け、内容も読み物、絵本、図鑑等その他の3種類とした。
 - 4 最上段にある岩波少年文庫は良書であるが、ほとんど利用がないとのことだったので、カラー刷りの目録を設置し、ベストセラーやテーマ別案内を紹介した。
 - 5 全体的に出版年の古い本が多く、新刊等の人気本はほとんどないが良書もあるため、組み合わせを考え配置した。
 - 6 図書館仕様というよりも、書店の配置に近いイメージである。
- (協力体制) 廃棄本選書後、中央図書館への搬出のため、2階から1階へ本の移動を児童館職員が行った。
- (廃棄本) 希望により100冊をエコハウスへ運搬した。残り500冊は、中央図書館リサイクル市配布用として保存。リサイクル市は、毎年、3月頃を予定。
- (課題) 下山児童館をモデルケースとし、今後、他児童館への作業及び中央図書館からの団体貸出を行う目的があるが、中央図書館図書購入費及び選定作業にかかる司書職員の体制に課題がある。